

令和 6 年度 京都市国民健康保険事業特別会計決算概要

1 基礎計数

項 目	6 年度予算 (A)	6 年度決算 (B)	差引 (B - A)	(参考) 5 年度実績
一般被保険者数 (年間平均)	259, 000人	262, 585人	3, 585人	272, 578人
一般世帯数 (年間平均)	189, 000世帯	190, 824世帯	1, 824世帯	194, 866世帯
一般総医療費	109, 022百万円	107, 975百万円	△1, 047百万円	111, 668百万円
一般1人当たりレセプト件数	16. 76件	16. 31件	△0. 45件	16. 33件
一般1件当たり医療費	25, 120円	25, 216円	96円	25, 082円
一般1人当たり医療費	420, 934円	411, 201円	△9, 733円	409, 674円

ポイント

○ 一般被保険者数及び世帯数の見込増

団塊の世代の後期高齢者医療制度への移行や被用者保険の適用拡大等によって前年度から大きく減少すると見込んでいたが、想定よりも減少幅が小さかったことにより、被保険者数及び世帯数が見込みよりも増加した。

○ 一般総医療費の見込減

高齢化の進展や医療の高度化等を考慮し、一定の伸び率を見込んで医療費の予算編成を行ったが、1人当たり医療費が想定ほど伸びなかったことから、総医療費が見込みよりも減少した。

2 財政状況

(単位:百万円)

項 目			6 年 度 予算額 (A)	6 年 度 決算額 (B)	差引 (B - A)		(参考) 5 年度決算額 (C)	増△減 (B-C)
一般医療分	歳入	保険料	14, 522	15, 081	559	※②	15, 153	△ 72
		国庫支出金	543	495	△ 48		12	483
		府支出金	93, 979	93, 746	△ 233	※③	96, 340	△ 2, 594
		一般会計繰入金	13, 335	13, 466	131		12, 295	1, 171
		繰越金			0			0
		基金繰入金	3, 340	3, 340	0		460	2, 880
		その他	228	298	70	※⑤	321	△ 23
	小計		125, 947	126, 426	479		124, 581	1, 845
	歳出	給付費	92, 994	92, 478	△ 516	※③	95, 742	△ 3, 264
		納付金	27, 429	27, 429	0		24, 637	2, 792
		保健事業費	1, 138	1, 011	△ 127	※④	982	29
		基金積立金	0	800	800	※①	1, 900	△ 1, 100
		その他	4, 386	3, 913	△ 473	※④	3, 418	495
	小計		125, 947	125, 631	△ 316		126, 679	△ 1, 048
	差引過△不足額		0	795	795		△ 2, 098	2, 893
後期高齢者支援分	歳入	保険料	5, 180	5, 494	314	※②	5, 460	34
		一般会計繰入金	2, 405	2, 409	4		2, 431	△ 22
		基金繰入金	1, 570	1, 570	0		1, 170	400
	小計		9, 155	9, 473	318		9, 061	412
	歳出	納付金	9, 155	9, 155	0		8, 981	174
		小計	9, 155	9, 155	0		8, 981	174
	差引過△不足額		0	318	318		80	238
介護分	歳入	保険料	1, 926	2, 020	94	※②	1, 971	49
		一般会計繰入金	874	869	△ 5		855	14
		基金繰入金	540	540	0		610	△ 70
	小計		3, 340	3, 429	89		3, 436	△ 7
	歳出	納付金	3, 340	3, 340	0		3, 452	△ 112
		小計	3, 340	3, 340	0		3, 452	△ 112
	差引過△不足額		0	89	89		△ 16	105
歳入合計 (A)			138, 442	139, 328	886		137, 078	2, 250
歳出合計 (B)			138, 442	138, 126	△ 316		139, 112	△ 986
単年度収支 (A - B)			0	1, 202	1, 202		△ 2, 034	3, 236

◎一般会計繰入金の内訳

(単位:百万円)

	6 年度 予算額(A)	6 年度 決算額(B)	差引 (B - A)	(参考) 5 年度決算額 (C)	増△減 (B-C)
保険基盤安定繰入金等	8,914	8,892	△ 22	9,148	△ 256
財政支援分繰入金	7,700	7,853	153	6,433	1,420
計	16,614	16,745	131	15,581	1,164

◎基金保有額の状況

(単位:百万円)

5年度末基金保有額		6,460
6年度基金取崩額	令和6年度予算に活用	△ 5,450
6年度基金積立額	令和5年度の累積黒字及び一般会計からの臨時支援	4,339
6年度末基金保有額		5,349

単年度黒字の主な要因

合計 12 億円

① 国保事業基金への積み立て（△8 億円）

令和5年度の累積黒字8億円を国保事業基金に積み立てた。

② 保険料収入の増（+10 億円）

被保険者の所得の増加や被保険者数の減少幅が見込みより小さかったことによる増。

③ 府支出金の増（+4 億円）

府特別交付金の経営評価分が想定よりも多く確保できた。

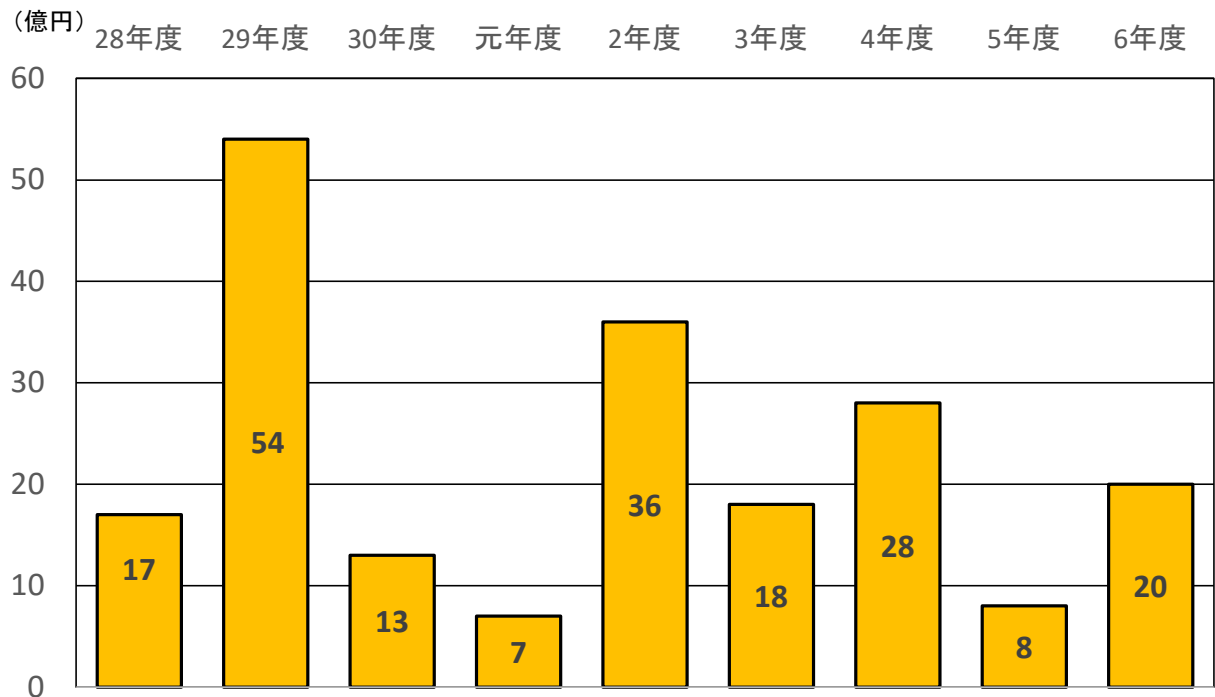
④ その他経費の執行残等（+5 億円）

事務費や保健事業等の執行残等。

⑤ その他収入の増（+1 億円）

第三者求償や診療報酬返還金による収入の増。

3 累積収支の推移



うち2億円は7年度に国に返還予定のため
8年度以降に活用可能な累積黒字は18億円

4 国保事業基金の推移

(単位:億円)

	令和5年度	令和6年度			令和7年度
	年度末残高	当初予算で活用	2月補正で積立	年度末残高	当初予算で活用
基金残高	64.6	(△54.5)	(+43.4)	53.5	(△53.5)
決算黒字分	41.6	(△39.5) 保険料据置 に活用	(+8.0) 令和5年度 決算黒字	10.1	(△10.1) 保険料抑制 に活用
臨時支援分 (一般会計から)	23.0	(△15) 保険料据置 に活用	(+35.4) 一般会計からの臨時 支援	43.4	(△43.4) 保険料抑制 に活用

令和 6 年度末累積収支 20 億円の黒字

令和 6 年度決算見込においては、単年度収支は 12 億円の黒字となり、累積収支は 20 億円の黒字となった。このうち、令和 6 年度の国庫補助金が 2 億円の過大交付となっており、令和 7 年度に返還する必要があることから、令和 8 年度以降に活用可能な累積収支は 18 億円となる。

国保事業基金については、令和 6 年度末の残額 53 億円の全額を令和 7 年度の保険料引き上げ幅の抑制に活用することとしており、令和 8 年度以降、被保険者の負担抑制に活用できる財源は、令和 6 年度決算において活用可能となった 18 億円のみとなっている。

高齢化や医療の高度化等により、年々、一人当たり医療費が増加傾向にあり、医療保険財政は厳しい局面を迎えている。本市国保では、これまで国保基金や一般会計からの臨時支援等、活用可能な財源があったことで、保険料の引上げを抑制してきたが、これにより財源不足が拡大していたことから、現在の医療費水準に応じた保険料設定とするため、令和 7 年度以降は、一般会計からの追加支援を行いながら、複数年かけて段階的に保険料の引上げを行うこととした。

本市としては、保険料の改定だけではなく、保険料の徴収率向上等による歳入の確保や、後発医薬品の普及啓発、特定健康診査や健康啓発事業等による被保険者の健康づくりなどの医療費の適正化により、保険料の負担増加の抑制に努めていき、被保険者の皆様の負担と本市の財政状況を踏まえながら、持続可能な制度運営を検討していく。

また、被保険者が将来にわたり安心して医療を受けられる制度となるよう、国を保険者とした医療保険制度の一本化と、それが実現するまでの間の更なる財政支援の拡充について国に対して、これまでよりも強く要望していく。